

精神分析対談.. 立木康介著

『露出せよ、と  
現代文明は言う』  
をめぐって

立木康介×十川幸司

2014

5/17(土)

14:00-16:00

京都大学人文科学研究所本館4階 会議室

主催 | 京都大学人文科学研究所

お問合せ | 京都大学人文科学研究所 総務掛 TEL:075-753-6902

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp> メールアドレス: [z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp](mailto:z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp) 予約不要・参加無料

# 精神分析対談：立木康介著 『露出せよ、と現代文明は言う』をめぐって



講師

立木康介 × 十川幸司



今日、人々は私的なものの開示や秘められたものの露出に駆り立てられている。私たちの生はスペクタクルの領域に  
 囲い込まれ、いかなる身体的関与も度外視した他者との「つながり」がしきりに要求される。そうした人間関係の蔓延に、  
 消費社会が要求する「若者の規範化」が結びつくとき、私たちのセクシュアリティは成長を停止し、不確かな揺動状態に  
 恒常的に留まることを余儀なくされる。それどころか、テクノロジーがもたらす快原理的思考の一般化と、それに伴う欲望  
 の迂回路の相対的な衰退は、私たちをセクシュアリティそのものから撤退させ、私たちの身体と思考をいやおうなく貧困  
 化させるように見える。そこでは、身体が文化的なコンテンツを奪われ、「ただの身体」、すなわち、生体認証という新たな  
 管理システムの特権的な対象でもある非エロース的身体へと貶められると同時に、思考＝思想の主たる担い手である  
 表象の構造が崩壊し、デジタルで「わかりやすい」提示への志向、無造作に反復されるステレオタイプな言説の氾濫、  
 「エヴィデンス」の名のもとに権威づけられる統計的数値のヘゲモニーを生じさせるだろう……。

これらの現象が必然的に同時代的であるとすれば、それは私たちの「心」のいかなる変化を告げているのだろうか。  
 『露出せよ、と現代文明は言う』(河出書房新社、2013)においてこの問いにアプローチした立木康介が、その先をめざして、  
 敬愛する精神分析家・十川幸司と語り合います。

## 立木康介 (ついき・こうすけ)

1968年生 京都大学人文科学研究所准教授

著書：

『精神分析と現実界』(人文書院、2007)

『精神分析の名著』(編著、中公新書、2012)

『露出せよ、と現代文明は言う』(河出書房新社、2013)

## 十川幸司 (とがわ・こうじ)

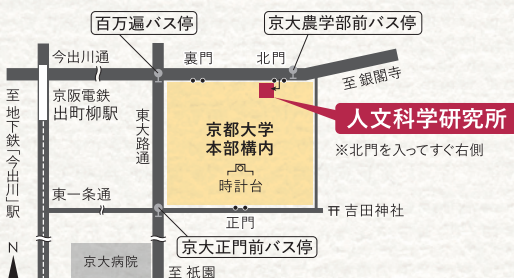
1959年生 精神分析家／精神科医

著書：

『精神分析への抵抗』(青土社、2000)

『精神分析』(岩波書店、2003)

『来るべき精神分析のプログラム』(講談社選書メチエ、2008)



●市バス 17、203系統「京大農学部前」下車徒歩1分／31、201、206系統「百万遍」下車東へ徒歩5分  
 ●京阪電車「出町柳」下車東へ徒歩15分 京都大学 北門入ってすぐ右  
 \* 駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用下さい。

## ●レクチャー&amp;コンサート

## 詩・ハーモニー・アドリブ ——ジャズ・ヴォーカルを伴奏する

次回予告

講師 | フィリップ・ストレンジ / 岡田暁生 ほか

日時 | 5月22日(木) 18:00~20:00

場所 | 芝蘭会館(京大医学部キャンパス) 稲盛ホール

★普段とは異なりますのでご注意ください。

先着200人限定  
事前予約不要

お問い合わせ | 京都大学人文科学研究所総務掛

Tel.075-753-6902 <http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp>メールアドレス: [z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp](mailto:z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp)